

12月10日（金）県立北大津高等養護学校を訪問しました！

対談テーマ

社会的・職業的自立に向けた特別支援教育の在り方について

本年度開校した北大津高等養護学校のノーマライゼーションの理念の具現化や職業的自立を目指す教育活動を見聞し、障害のある生徒の社会的自立や職業的自立に向けた教育の在り方について考える。



訪問した委員

土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員
窪田 知子 委員 野村 早苗 委員
石井 太 委員

県立北大津高等養護学校について

湖西地域に初めてとなる県内4校目の高等養護学校として、令和3年4月に開校しました。併設する北大津高等学校の生徒と日常的に交流を行い、互いに高め合う学校づくりとともに、地域や産業界と連携し、生徒の社会的自立および職業的自立に向けた教育に取り組んでいます。

意見交換より

委員：企業との連携の目的は何か。

学校：企業との連携は、2点の意味がある。1点は、企業の考えなどを授業づくりに取り入れること。もう1点は、生徒の就職に向けてつながり構築しておくことである。

委員：北大津高等学校の生徒との関係はどうか。

学校：高等養護学校の設置前に、高校の生徒には適宜、説明を行ってきた。心配したようなトラブルはなく、共に頑張っている姿が見られる。



専門教科「農業」の様子

委員：大学とも何らかの連携は考えられないか。

学校：近隣の成安造形大学と商品開発等について連携できたらと考えている。大学生にとっても学びとなるように、現在、検討中である。

委員：社会に出ていく大学生の障害者理解を進める意味でも取組を進めてもらいたい。

滋賀県教育委員会では、県内に4校の高等養護学校を設置し、ノーマライゼーションの考え方に基づき、特別支援学校の生徒と高等学校の生徒が同一の敷地で学ぶことができる環境づくりを進めるとともに、障害者の社会的自立および職業的自立に向けた教育に取り組んでいます。また、[「しがしごと応援団」](#)との連携、[「しがしごと検定」](#)の実施など、障害のある生徒の就労意欲や就労に必要な基礎的な技能等を身に付ける取組を進めています。